

令和 5 年度 (2023) 共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名	和文：高エネルギー天体现象の多角的研究 英文：comprehensive study of high-energy astrophysical phenomena
研究代表者	霜田治朗
参加研究者	(敬称略) 川面 洋平、高棹 真介、高橋 慶太郎、川中 宣太、川島 朋尚、井上 壮大、高橋 幹弥、石崎 渉、芳岡 尚悟、田中 周太、横山 将汰 山田 知也、西村 信哉、森川 莞地、聖川 昂太郎、浅野 勝晃、衣川 智弥、大村 匠、和田 知己、西脇 公祐、後藤 瞭太、草深 陽、川口 恭平
研究成果概要	<p>2023年度はシリーズ化した研究会として「高エネルギー現象で探る宇宙の多様性III」を2023/11/1-2に行った。この研究会は宇宙線研究所を含めた「次世代ニュートリノ・マルチメッセンジャー天文学連携機構」の発足式を兼ねた研究会の二日目に合同で行い、初日に行われた各実験グループとの進展と、「現場」を支える若手研究者を中心とした17名の講演者が最新の研究成果について報告し、大変盛況なものになった。</p> <p>本シリーズ研究会は、「次世代ニュートリノ・マルチメッセンジャー天文学連携機構」の発足に象徴されるように、より幅広く研究対象を拡大している最中である現代宇宙物理学の実情を踏まえ、様々な課題の中に共通して現れる物理過程の理解を深め、各課題を有機的に繋げ、「マルチメッセンジャー天文学」の基盤を構築・強化することを目的とした研究会である。上記のテーマは宇宙線研で行われている他の様々なプロジェクト、例えばCTAによる高エネルギーガンマ線観測などと密接な関係を持っている。TA計画は最高エネルギー宇宙線の異方性を明らかにしつつあり、上記のGRB起源説を検討する重要なヒントを与えている。観測的宇宙論グループが行っている初期宇宙の星形成の歴史は、GRB発生率などの高エネルギー天体现象の歴史とも結びついて来るし、個々の銀河進化シナリオと宇宙全体の統計的進化は、より直接的な関係を持つ。また近い将来神岡で検出されると期待されるニュートリノ放射が何を意味するメッセージになるのかも追求していく必要がある。将来の観測と比較可能な詳細モデルの構築を目指し、本年度の研究会では理論・観測双方から幅広く講演者を募った。</p> <p>高エネルギー現象の素過程について議論しつつも、こうした幅広い問題意識を持った研究会は決して多くないので、日本の研究者にユニークな議論の機会を提供できる貴重な研究会であることを再認識した。広範囲な分野をカバーしつつも、各年に時宜に合った特定のテーマを深く議論する事が他の研究会には無い特徴で、今後の高エネルギー宇宙物理学の方向性を考える上でも、有意義な研究会となった。</p>
整理番号	F20